

測定結果の分析 アミノ酸大豆くる酢

2008年5月30日

有限会社 B・Hサポート 様

アクアタック研究室
代表 片岡 章
〒201-0004
東京都狛江市岩戸北
3 - 8 - 11 - 401
TEL/FAX 03-3480-9618

アミノ酸大豆くる酢には、“物質としての栄養成分を補給する”という物理的側面と、“波動によって作用する”というエネルギー的側面とがあります。当報告書は、そのうちの後者に関するものです。¹ また、いわゆる効能ではなく、波動値から導かれるひとつの見解を記したものです。

この報告書の分析は、つぎの2つの観点から行なわれています（次ページに図示）。

(1) 作用する波動帯域（測定値全体の波動レベルから見た特徴）

物品の波動レベルが異なれば、作用する帯域も異なります。この分析では、アミノ酸大豆くる酢がそのうちのどの帯域に作用するのかを示します。

人間は、つぎの4つの波動帯域から構成されており、その本来のレベル（波動値）は、
の順に低くなっていくと想定されます。そして、
は を、
は を、
は をコントロールする、という関係にあります。

メンタル体（精神）... 思考・知性・客観的認識（人間的）

アストラル体（感情）... 感情・欲望・主観的認識（動物的）

エーテル体（生命）... 成長・活動・生殖のエネルギー（植物的）

肉体 ... 物質（鉱物的）

一般には、波動値が高いほど、「波動的な活性度が高い」「物質性から精神性に向かう」「より根本的に深く作用する」と考えられます。

しかし、必ずしも“波動の高いものほど好都合である”とはいえません。それは、つぎの2つの理由によります。

- 1) 波動レベルの違いは、上記のどの波動帯域に作用するか、という“作用の仕方”の違いであって、それぞれに、好都合な面、不都合な面がある。²
- 2) 波動が高すぎると、人によっては、“作用が強すぎる”“適合しにくい”と感ずることがある（主に、パワーグッズ、次いで化粧品）。

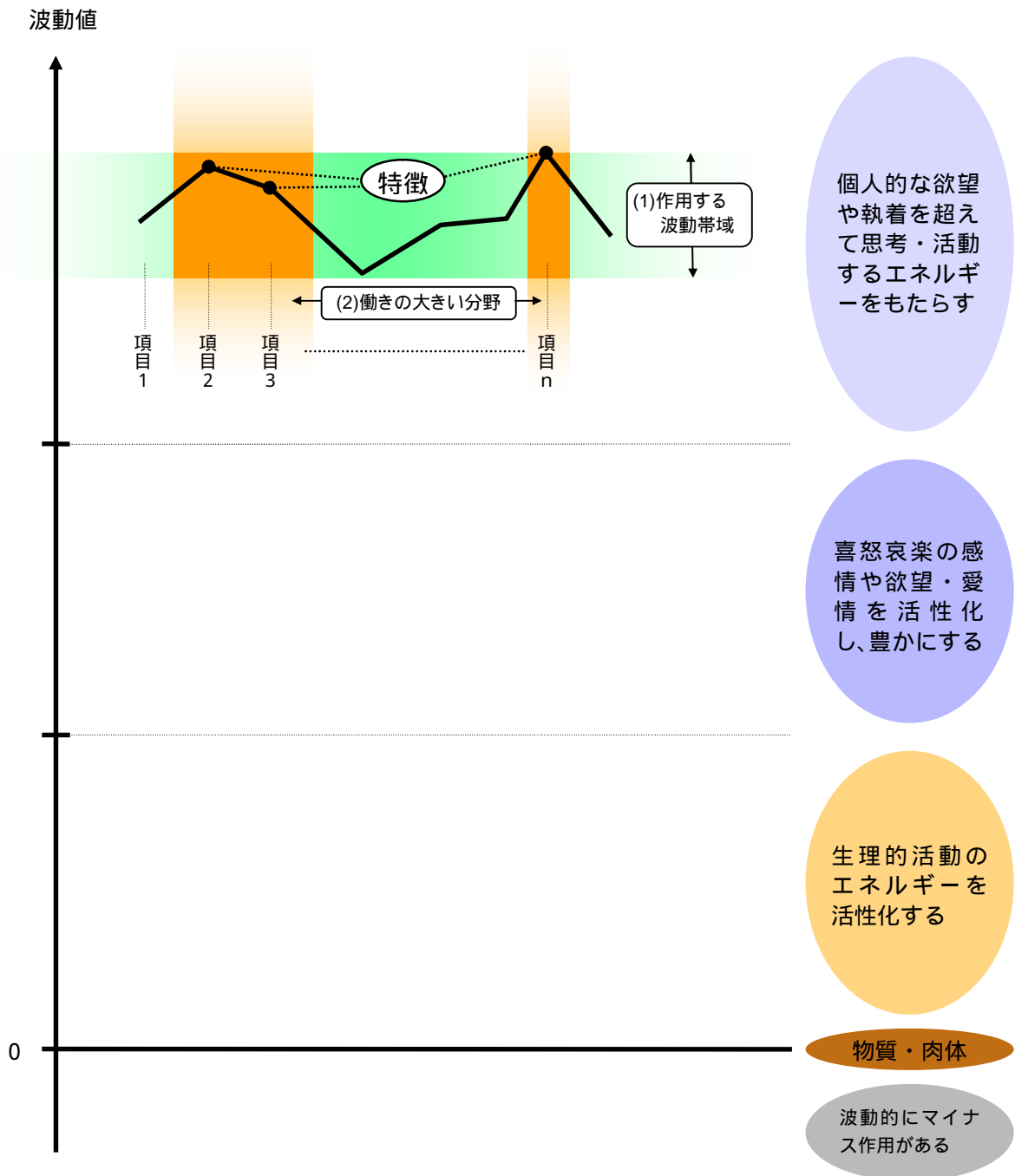
¹ 前者については、成分分析等の化学分析によって知ることができます。

² たとえば、ホメオパシーでは、あえてポテンシー（波動レベル）の異なるレメディイを用意し、患者の状態に応じて使い分けています。

(2) 働きの大きい分野（項目別に見た特徴）

<大きな働きがあるのは、どのような分野なのか>を示します。“消化器系によい” “リラックス作用がある”などの、いわば<得意分野>です。

そして、「(1) 作用する波動帯域 = 縦方向に見た特徴」と「(2) 働きの大きい分野 = 横方向に見た特徴」との重なる領域 —— “どの波動帯域で、どの分野に働くのか” —— が、その製品・物品の特徴となります。



【結論の要約】

結論として、アミノ酸大豆くる酢 の波動的な機能・役割は、つぎのように要約することができます。

作用する波動帯域（縦方向に見た特徴）

- 個人的な欲望や執着を超えて思考・活動するエネルギーの帯域に作用する。つまり、かなり深く根本的なレベルから改善する
- 2次的、3次的に、感情、身体のエネルギーをコントロールする



働きの大きい分野（横方向に見た特徴）

上記の精神的なレベル（深さ）における働きとして

1. エネルギー代謝を促進し、痩身をサポートする
2. 美容に貢献する
3. 脳の働きを高める。脳疾患の改善を助ける
4. 解毒・排毒を促す
5. メタボリックシンドロームを予防する
6. 栄養バランスを改善する

項目設定について

測定に際しては、アミノ酸大豆くる酢 の特徴に関係のある項目と、一般的な項目とを組み合わせせております。一般的な項目も含めるのは、人全体への影響・作用を見るため、そして、相対的に特徴を浮かび上がらせるためです。

“特徴に関係のある項目”については、この測定の場合、「美容」「痩身³」をキーワードとして、項目設定しております。たとえば、「美容」ならば、[抗酸化作用][腸内細菌叢][皮膚]といった項目が該当します。

“一般的な項目”は、[免疫機能・恒常性][ストレス][肝臓][腎臓][幸福・(愛)]などです。これらは、当然のことながら、“特徴に関係のある項目”と重複する場合があります。

³ 通常は「ダイエット」と称されていますが、「ダイエット」は、本来“食養生”を意味する言葉ですので、混同を避けるため、当報告書では「痩身」としております。

作用する波動帯域

波動値は $S + 21.7 \sim S + 13.3$ の範囲に分布し、その平均値は $S + 17.54$ となっております。したがって、以下のように推測することができます。

<波動レベルからみた、アミノ酸大豆くろ酢 の働き>

人の波動測定において、感情・精神の波動値が $S + 10$ を越える場合、その人たちには、“自分個人の損得や悩みに^{とら}囚われず、周囲のためにエネルギーを注ぐ”という傾向が見られます。この点から、アミノ酸大豆くろ酢 は、

- ・ 個人的な欲望や執着を超えて思考・活動するエネルギーの帯域に作用する。つまり、かなり深く根本的なレベルから改善する
- ・ ひいては、2次的な作用として、感情エネルギーをコントロールする
- ・ さらに、3次的な作用として、身体（生命）エネルギーをコントロールする

と考えられます。

後述する 働きの大きい分野 も、このレベルでの働きを前提としております。⁴

<マイナスに作用すると考えられる点・効果なしと考えられる点>

A．波動が低すぎることによるもの

ありません。いずれの項目も、十分に高いレベルを示しております。

人の身体波動を測定した場合、+20以上であれば、健康とみなせます。したがって、物品の波動値が +100よりも高かったならば、人の健康(身体)に寄与しうるレベルであると考えられます。

ただし、感情・精神への作用に関しては、+100万以上のレベルが求められます。

B．波動が高すぎることによるもの

物品、製品にもよりますが、一般に、この波動レベルのものは、働き方が深い反面、そのエネルギーを享受できる人が限られたり、波動に敏感な人にとっては作用が強すぎたり⁵する可能性もあります。

しかし、食品、あるいはサプリメントなので、作用が強すぎる、という不都合はないと思われず。

C．項目間の波動レベルの格差が大きすぎることによるもの

ありません。

⁴ [肝臓] [アトピー性皮膚炎]などの身体波動を表す項目についても、それぞれに対応する感情や精神のレベルがあって、波動の高い物品・製品はそこに作用する、と考えられます。

⁵ 主に、常時身に付けるパワーグッズ、あるいは化粧品などの場合。食品では、あまり見られません。

働きの大きい分野

いずれの項目も、優れた働きの期待できる数値を示しておりましたが、当セクションでは、そのなかでもとくに働きの大きい分野はなにか、という点をみていきます。

高い数値となった項目を上から順に列挙すると、つぎのようになります。⁶

【筋肉組織】【免疫機能・恒常性】【腸内細菌叢】【脳全体】【副交感神経】【高血糖】
【アミノ酸バランス】【血液】【メラニコリー・鬱病】【脂肪細胞】【高血圧】
【悪性腫瘍（癌）】【抗酸化作用】【脳梗塞】【心臓】【毛髪・毛】【アレルギー】
【認知症（痴呆）】【肝臓】【ストレス】【ビタミン欠乏症】【血栓】【皮膚】【腎臓】
【骨】【中性脂肪】...

これらの波動を高めたり改善したりする作用が アミノ酸大豆くろ酢 の特徴であると考えられますが、とりわけ、【筋肉組織】～【腸内細菌叢】の3項目は、それ以降の項目を引き離して高い数値を示しておりますので、より確かな特徴であるといつてよいでしょう。

また、上記項目間の関連をみることにより、さらに確かな特徴・傾向として、以下のものが浮かび上がってきます。

（特性・傾向は、働きの大きいと考えられるものから順に記しました。また、各見出しの下には、その根拠となった【項目】【事項】を示しました）

1. エネルギー代謝を促進し、痩身をサポートする

ATP 産生の面から

【筋肉組織】【心臓】【肝臓】【腎臓】

コエンザイム Q10 の働きも伴い、細胞内のミトコンドリアが ATP（アデノシン三リン酸）を合成します。そして、その ATP が分解することにより、生命活動に必要なエネルギーが供給されます。

このミトコンドリアを多く含み、エネルギー代謝を盛んにおこなっている細胞が、骨格筋、心筋、肝臓、腎臓などです。【筋肉組織】【心臓】【肝臓】【腎臓】の波動値が高いことから、これらの組織を活性化してエネルギー代謝を活発にすることが期待できます。

脂肪細胞健全化の面から

【脂肪細胞】

エネルギー源の代表である脂肪は、脂肪組織のなかの脂肪細胞に含まれていますが、その脂肪が過剰になると、肥満を招きます。

⁶ たとえば、【ストレス】は【ストレス（を解消する力）】を、【炎症】は【炎症（を解消する力）】を意味しています。つまり、プラス値であれば、“それを解消する力がある”ことになります。このように、いずれの項目も、プラス値は、「望ましい波動がどれくらいあるか」を示しています。

ここで、[脂肪細胞]の波動値が高いということは、“脂肪細胞の状態を正常化し、余分な脂肪を含まないようにして、効率のよいエネルギー代謝を促進する”ということだと考えられます。

したがって、当製品には、上記のATP産生活動と連携してエネルギー代謝を促進し、ひいては痩身をサポートする、大きな働きがあると推測されます。

栄養素の面から

[アミノ酸バランス][ビタミン欠乏症]

アミノ酸大豆くろ酢に含まれるL-カルニチンは、脂肪をエネルギーに変える上で欠かせないものですが、この物質は、アミノ酸のL-リジン、L-メチオニンから合成されます。[アミノ酸バランス]の波動が高いことは、このL-カルニチンが良質であることを示唆しています。

また、エネルギー代謝には、補助栄養素としてビタミンが必要となりますが、この点にも力を添えています。

2. 美容に貢献する

[1. エネルギー代謝を促進し、痩身をサポートする]

[腸内細菌叢][抗酸化作用][毛髪・毛][皮膚]

[4. 解毒・排毒を促す]

毛髪、皮膚そのものの波動をレベルアップする作用と並び、中からの美容作用として、“エネルギー代謝と痩身”“しみ・そばかすなどを防ぐ抗酸化作用”“腸内環境の改善と解毒・排毒”、これらを促進、強化する働きがあります。

なお、抗酸化作用には、コエンザイムQ10が大いに関与していると考えられます。

3. 脳の働きを高める。脳疾患の改善を助ける

[脳全体][メランコリー・鬱病][脳梗塞][認知症(痴呆)][血栓]

脳梗塞の原因となる[血栓]も含め、脳に関する項目の多くが、上位にあります。脳の活性化、正常化が大いに期待できます。

4. 解毒・排毒を促す

[副交感神経]が[交感神経系]よりも高い[肝臓][腎臓]

解毒器官である肝臓、排毒器官である腎臓の力を強化します。

同時に、自律神経のうちの副交感神経を優位にすることにより、緊張に由来する血流障害を解消したり、内臓の排泄機能を高めたりして、老廃物や毒素の排出を促します。

5. メタボリックシンドロームを予防する

[高血糖] [脂肪細胞] [高血圧] [中性脂肪]

メタボリックシンドロームであるかどうかを判断する要因として、内臓脂肪型肥満（腹部肥満）、高脂血症、高血圧、高血糖の4つが挙げられています。

このたびの波動測定では、この4つに対して指標となる項目が、いずれも上位にあります。また、[肥満症] も、全53項目のなかでは下位グループに属しますが、数値自体は高いものなので、この特徴を支えていると考えられます。

6. 栄養バランスを改善する

[アミノ酸バランス] [ビタミン欠乏症]

“アミノ酸・ビタミン・ミネラルが豊富である”という有機玄米黒酢の特徴が、波動値にも表われております（[ミネラルバランス] も、下位ながら、十分に高い数値です）。

ただし、波動値が表すものは、量的な多寡ではなく、調和したエネルギーの活性度合いですから、正確に言えば、“栄養バランスをもたらす力が大きく、とりわけ、アミノ酸とビタミンに関して優れている”となります。

■ 以下の資料を参考にさせていただきました

『保健同人 家庭の医学』 保健同人社 （肥満症、脂肪細胞）

『目で見るとからだのメカニズム』 堺 章 / 医学書院

（ミトコンドリア、ATP、エネルギー代謝）

『新編 臨床検査講座 6 生理学』 今川珍彦、北村清吉 / 医歯薬出版

（エネルギー代謝、補助栄養素）

<http://kenko.it-lab.com/info.php/8/> （コエンザイム Q10）

<http://sssci.com/> （L - カルニチン）

<http://ja.wikipedia.org/wiki/...> フリー百科事典 Wikipedia / カルニチン

『自然食ニュース』 336 2001-12

福田・安保理論による「自律神経免疫療法」 / 自然食ニュース社

（副交感神経と排泄・排毒作用）

『内臓脂肪を減らす本』 工藤一彦 / 主婦と生活社 （メタボリックシンドローム）